

好きなのに、馴染めない人たちの。

幼稚園の頃から場の空気に馴染むことが出来ず、下校後の自宅で見るとテレビと本だけが僕のほんとうだった。そんな嘘はしばらく続き、デザイン科の進学をきっかけに、居場所を確保するために作品をつくるようになった。10代の僕には映画や芸術・本や音楽の存在は欠かせないものだった。卒業後、社会に出て成長を求めて活動するうちに、僕は再び居場所を失うようになった。勤務先を含め、クリエイターの集まりやインディーズのイベントなど色々と参加をしてみたものの、そのすべてに言葉にできない居心地の悪さとズレを感じ、“業界”と呼ばれる作り手の世界はこうなのかと、再び絶望したのだ。子供の頃のようにまた孤独になるのか、自分が全てを注いだ世界でも上手くやっていけないならどうしたらいいのか。いっそのこと全て諦めるべきなのか。パニック障害を患い、決断が出来ずこんな歳になった。うだうだと立ち上げたこの組織の扱いにも悩んでいる。僕の友人にこの話をすると、実はその友人も近しい悩みを抱えていることを打ち明けてくれた。「馴染めない人」というのは意外といるのかもしれない。それで僕はひとまずSanzuiという組織を馴染めない人たちの活動の場としようと思いついた。場がある限り馴染めない人たちというのは発生するのが現実ではあるが、それでも。